【第５０期初級陸曹特技課程「准看護師」総合訓練】

令和８年１０月２１日（水）、自衛隊札幌病院准看護学院（学院長　本間１佐）は、北海道大演習場において、初級陸曹特技課程「准看護師」第５０期生の総合訓練を実施した。本訓練は、２年間の課程教育における野外訓練の集大成として、中隊救護員による負傷者の捜索から始まり、敵の脅威下における第一線救護、次いで担架班による後送から中隊患者集合点におけるトリアージ及び応急処置等を施した後、更に後送が必要な患者は、救急車班が連隊収容所まで後送した。連隊収容所では、患者の申送りから医官による診療の補助までの一連の行動を演練した。学生は、ここまで積み上げてきた知識と技能を最大限発揮するとともに、組長・班長動作においては、初級陸曹として学んできた指揮能力を十分に発揮し、与えられた任務を同期で力を合わせて完遂した。

訓練視察後の病院長より訓示を受けた学生たちは、帰隊後のＡＡＲ（振り返り）の中で、「今後、衛生救護陸曹として、常に自らの地位・役割を客観的に分析し、任務として何が求められているのか考え、如何なる任務にも柔軟に対応できるよう更なる衛生救護能力の向上を追求するとともに、自主的に学びを継続し、任務遂行能力を深めていく。」と発言していた。

第５０期生は本訓練において、衛生救護陸曹としての自信を深めるとともに、日々の現状に満足することなく、それぞれがあらゆる任務に対応できるよう、これからも自ら学びを深め、知識・技術の向上を目指すことを胸に誓った。



負傷者を護送する学生



第一線救護



中隊患者集合点における応急処置



救急車へ患者搭載に向かう担架班



訓練視察（病院長　菊池陸将）



連隊収容所における患者観察



集合写真（病院長・総務部長・最先任上級曹長・准看護学院第50期生）